

World Investors.TV, CEO, 石田和靖

# 新たな高さに到達する アゼルバイジャン





ここ最近、エネルギー系のシンクタンクから、「アゼルバイジャンが欧州～アジアの新エネルギー回廊の中心になりうる」というような内容のレポートが発表されている。私がアゼルバイジャンを初めて訪れたのは2012年10月。街の人々曰く、ここ2～3年で街の景色と国民生活が様変わりした国だ。覚悟はしていたが、想像を超える勢いの成長に驚いたのがまだ記憶に新しい。街中は建設ラッシュ。バクーの街並みはまさにここ2年で景色が急変したようだ。

バクー油田有するアゼル

バイジャンは、石油と天然ガスにより急成長している国だ。そんな国の最大の石油会社SOCAR（ステイト・オイル・カンパニー・オブ・アゼルバイジャン）の、重鎮にお会いさせていただき色々なお話を聞いてきた。元々旧ソ連だったアゼルバイジャンは、大型企業が1割、残りの9割がほとんど中小零細企業。また大型企業はほとんどが国営。国際競争力や経済の多角化を高めるために、9割の中小零細企業を育てている。

アゼルバイジャンは、1991年にソ連から独立した国で、この独立を機

に、自由主義経済へとシフトし、教育制度も大きく変わった。その旧ソ連の影響もあってか、30歳以上の人たちは、ロシア語は話せるが英語はほとんど話せない。街中で英語の通用度はかなり低い。しかし教育改革の後、いわゆる30歳以下の人たちは、ロシア語はあまり話せないけれど、英語を話すことができる。若い人たちが、英語を使いビジネスを興し、この国の新しい牽引役となっていくということ、SOCARの重鎮は強く言っていた。

また、ソ連下にあったと



きは、豊富な石油資源を自由にすることができなかつたけれど、今は、2006年に完成したカスピ海から地中海へとつないだ、アゼルバイジャン～グルジア～トルコ3カ国の共同プロジェクト「BTCパイプライン」によって、ロシアの影響力を排除したかたちで、石油や天然ガスの輸出が可能になった。それによって、急激な経済成長を実現しているのが、現在のアゼルバイジャンというわけだ。

今回は、首都のバクーと近辺の郊外を訪問したが、まるでヨーロッパの街並みを現代に蘇らせたような感じと、ドバイに林立する近代的で斬新なビル群が同居しており、新旧入り混じったなんとも不思議な風景だった。新しいものと古いもの、そして旧ソ連とイスラムと欧州、こういった要素が融合されて街並みが形成されている。そんな感じがいまのアゼルバイジャンだ。古く伝統的な街並みは残しつつも、新しいプロジェクトを次々と

打ち立てており、それらがドバイの街並みを想像させるものばかり。

バクーのカザール島プロジェクトは、カスピ海沿岸に、ドバイのパームジュメイラのような人工島を埋め立て中。ここに、世界最高層ドバイのブルジュカリファをゆうに凌ぐ、高さ世界一1050メートルのアゼルバイジャンタワーが2020年までに完成予定。ちなみに今はまだ、海を埋め立てて椰子の木をたくさん立てただけ。まだ何も無い。ここに本当に世界

一のビルができれば感動だ。

また、建設中のショッピングモール・住居・オフィスの複合施設、ポートバクーレジデンス。ドバイのクリーク沿いに建つエミレーツNBD銀行の本社ビルにデザインがそっくり。建設中のこんなビルが街のあちこちに立っているのがいまのバクー。バクーはものすごい建設ラッシュだ。

カスピ海沿岸に作られたバクーの海浜公園は、広い遊歩道に緑の木々や芝生・噴水・オブジェ・美術館・博物館・ショッピングモール・ビジネスセンターなどが作られ、夜は美しくライトアップされ、幻想的な空間を作り出す。この海浜公園、現在カスピ海沿岸に全長14キロメートルと、とてつもなく巨大な海浜公園なのだが、こちら将来的に全長30キロメートルの世界一長い海浜公園になる予定だ。公園内は緑と水が多くバリアフリーで自転車タクシーもあり、人と地球に優しいプロジェクト。バクー・シーサイド・ブルーボードは最新の街づくり。



(バクー中心部の奇妙な建造物ヘイダル・アリエフ・カルチャーセンター)

街の中心部に突如と現れる奇妙な建造物、アゼルバイジャン前大統領ヘイダル・アリエフの文化施設。かなりインパクトのあるかたちをした建物なのだが、これは上空から見ると、ヘイダル・アリエフのサインと同じカタチをしているそう。一度見たら忘れられない、そんなカタチをしている、世界中の観光客を集めようとしている巨大な文化施設が、ヘイダル・アリエフ・カルチャーセンターだ。とにかく、いまものすごい勢いの建設ラッシュ。それ

がアゼルバイジャン。歴史的にも、ドイツ・ロシア・イラン・トルコとの結びつきも深く、それらの国からの投資も加速している。このアゼルバイジャンのすごさは、生で見ないと分からない。この街が3年後、5年後、どんな変貌を遂げているか、非常に興味があり、数ヶ月の時間をおいて、また絶対に訪問したい国となった。欧州とアジアの新エネルギー回廊の中心となりえるアゼルバイジャン。みなさんもぜひ注目していただきたい。”Baku Reaching New Heights”という言葉がある。新たな高さに到達するアゼルバイジャンという意味だ。新たな高さへ向けたこの国のビジネスは動き始めたばかりだ。◆